

報 告

- ◎平成14年度研究成果発表会開催
- ◎農林水産省「消費者の部屋」特別展示会

◎平成14年度研究成果発表会開催

去る10月21日(月)、当所の平成14年度研究成果発表会を石垣記念ホールにて開催しました。地球温暖化防止の国際的な取り組みの中、森林のCO2吸収量の把握が重要な課題となっており、今年度のテーマに「森林は京都議定書にどれだけ貢献できるのか?」を設定し、関連する研究成果を発表しました。



開会挨拶を述べる廣居理事長

気象環境研究領域の大谷気象研究室長は当所が日本各地の森林で実施している観測タワーを利用した森林と大気間のCO2の交換過程に関する研究を「森林のCO2吸収量をタワーではかる」の演題のもとに紹介しました。植物生態研究領域の千葉幸弘物質生産研究室長は、「森林の手入れはCO2吸収量にどう影響するか?」として、森林の立木本数や林齢などによって森林の構造や成長量がどのように変動するか予測するとともに、森林への炭素蓄積やCO2吸収量が森林の手入れによってどのように変化するか、研究の現状を紹介しました。立地環境研究領域の高橋正通養分環境研究室長は「森林が作る炭素の隠し金庫－森の土－」と、ユニークな演題で、森林土壌中に蓄積された炭素量が植物に固定された量より非常に多いこと、森林施業によってその量が変化することを報告しました。東北支所森林資源管理研究グループの横田康裕研究員は「CO2吸収をめざした熱帯での大規模造林が地域社会に与える影響」の演題で、地球温暖化防止策の一つとして高い関心が寄せられている炭素吸収造林について、地域社会への影響等を分析・把握する上での留意点についてインドネシアでの調査事例を報告しました。最後に、森林管理研究領域の天野正博領域長が、京都議定書が求める精度で森林の炭素吸収量を推定するための手法の開発や削減目標達成のための森林管理法等について、現在展開中の研究を「森林総合研究所の研究と京都議定書」の演題で報告しました。

当日は雨模様の思わしくない天気であったにもかかわらず、地球温暖化問題に関心をお持ちの行政実務担当者や民間会社の方々に数多くご来場いただき、参加者は253名に上りました。それぞれの発表課題について活発な質疑応答があり、今年度の研究成果発表会は成功裡に終わりました。



大勢の参加者が集まった会場

発表会当日、来場された方々へ配布した講演要旨集に残部があります。入手希望の方は研究情報科(Tel. 0298-73-3211(内線227))までご連絡下さい。



総合討論で質問に答える天野森林管理研究領域長とその他の演者

◎農林水産省「消費者の部屋」特別展示実施

去る10月28日(月)から11月1日(金)まで、農林水産省1階「消費者の部屋」で、特別展示「研究の森から－森林と私たちの生活－」を行いました。

今までに発行してきた研究情報版「研究の“森”から」より【森を知る】、【森を守る】、【森を活かす】、【森を使う】、【快適な生活】の五つのテーマにちなんだ研究をピックアップし、パネルで紹介しました。また、「世界一重い木・世界一軽い木」の展示、東南アジアなどに生息するカミキリムシやセミの標本、多摩森林科学園の珍しい桜・美しい桜をアクリル樹脂に閉じこめての展示や、木材の様々な加工品・木材抽出物の展示、多様な樹種の種子展示も行いました。

フタバガキ科種子の散布様式の説明をする
中村研究情報科長

普段見られない展示物に熱心に見入ったり、森の香り・フィトンチッドの体験をされる方々も多く、開催期間中1,000人を越える人々が訪れました。ご来場の皆様には「研究の“森”から100号記念誌」はじめ各種刊行物もお持ち帰りいただき、当所に対する関心の高さがうかがえました。

この特別展示にご協力いただきましたフィトンチッド普及センター、協同組合ラテスト、木材性能向上技術研究組合の各位にこの場を借りて御礼申し上げます。



大勢の方がお越し下さいました